



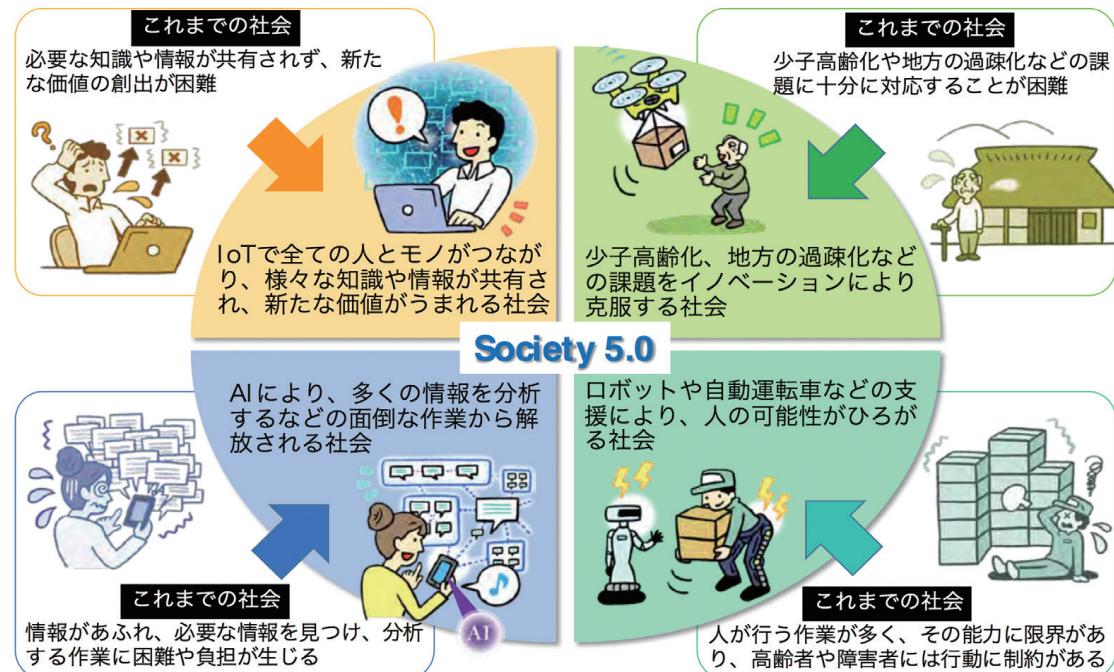
記載記事の詳しい情報はカンコーWEBサイトのメディア情報からご覧いただけます。WEB限定記事もお読みいただけます。

カンコー学生服



# Society 5.0 の社会に適応するには!?

## —— 社会が変わる、学びが変わる。 ——



次世代の社会のあり方を示す、「Society 5.0」という言葉を聞いたことがありますか？その意味や仕組みを知っていますか？新たな時代を豊かに生き抜き、活躍し続ける人材を育てるために、学校はどうあるべきか、教育はどうあるべきかを考えるときが来ています。

出典：内閣府ホームページ  
([http://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/index.html](http://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html))

## 超スマート社会が到来 知識や情報を共有できるテクノロジーを活用して

「Society 5.0」とは、日本政府が「第5期科学技術基本計画」の中で提唱した、日本が目指すべき未来の社会の姿です。人間社会のこれまでの変遷を、狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（2.0）、工業社会（3.0）、情報社会（4.0）とし、これに続く新たな社会として「Society 5.0」が想定されています。

その中身は、一言でいうと「超スマート社会」。IoT（Internet of Things）ですべての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有されます。また人工知能（AI）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになります。たとえば、AIが冷蔵庫にある食材でレシピを提案してくれたり、自宅に居ながら専門医による遠隔診断を受けられたり…。年齢や個人のスキル、住む地域、経済力などに関わらず、誰もが新たな恩恵を受け、快適で活力に満ちた質の高い生活を送れるようになる。これが、「Society 5.0」では、今まで人間が行っていた作業をAIや

AIが代行・支援するため、人は煩雑な作業から解放され、他の創造的な仕事に注力できると言われています。これは裏を返せば、人の仕事がAIやロボットに奪われる、ということでもあるのです。



高感度な地域、学校は、すでに「Society 5.0」に向けて試行錯誤し、新しい教育プログラムを実践しています。そしてカンコーは、2016年に一般社団法人カンコー教育ソリューション研究協議会を設立し、様々な地域・学校と協働する取り組みを進めています。「キャラ教育を充実させたいけれど、何から始めればいい?」「将来、地域の活性化を牽引する人材育成に着手したい」、そんな場合はぜひご相談ください。

## 地域・学校と手を携え、社会の変化を見据えた教育プログラムの実践へ

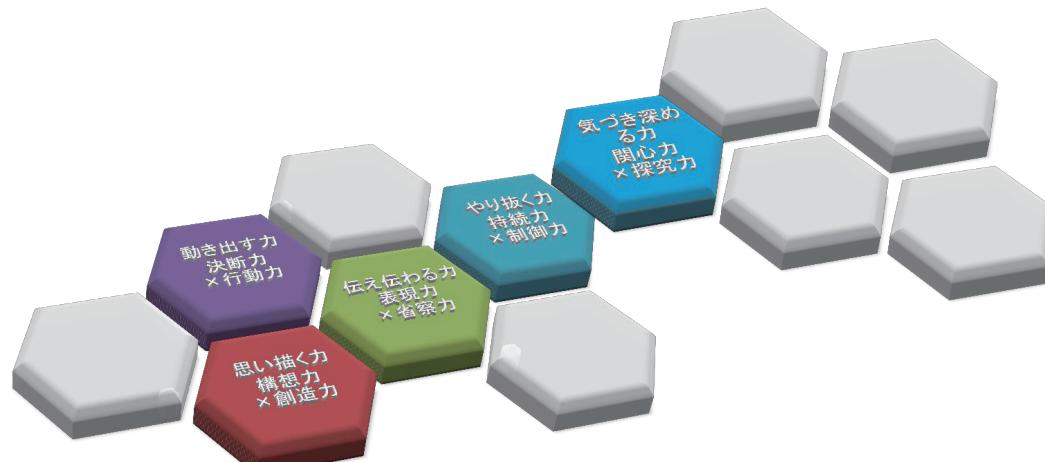


- 1 文章や情報を正確に読み解き、対話する力
- 2 科学的に思考・吟味し、活用する力
- 3 価値を見つけ、生み出す感性と好奇心・探究力

おかげさまで、一般社団法人 カンコー教育ソリューション研究協議会は、設立から3年目をむかえました。

私たちの考える **ひとづくり** とは  
仲間・地域・社会との協働により  
未来を生き抜く個々の **identity** を育むことです

※identity 時代の変化を受け止め多様性を受け入れ混沌とした未来社会を生き抜く力です。



私たちは、キャリア教育をデザインしています  
家庭や学校、企業や団体の垣根を越えて

非認知的能力を育成する3つのプログラム



**NCS**  
KANKO NCS program.

目標・感謝・文化などをテーマに様々な活動を通じて“考える”→  
“話し合う”→“伝え合う”という流れの中で自己や他者を理解し、  
関心力を高め、創造力・表現力を育むプログラムです。

※NCS = Non Cognitive Skills(非認知的能力)の頭文字です

Ancs  
program

Ancs(アンクス)プログラムは、中学・高校の授業で取り組むことができる、アクティブラーニング型学習プログラムです。モチベーションやダイバーシティをテーマに、地域ゲストを招き、仲間と対話しながら生き方をひろげます。

部活のチカラ  
ヒトづくりサブリ

OB/OGなどの身近な先輩たちの経験や体験談による講話をもとに、自己の価値観を言語化し、他者と共有を繰り返していくプログラムです。部活動という小さな社会でのさまざまな経験・学びをキャリア教育につなげます。

ねらいに近づくプログラム。

キャリア教育や特別活動のコンテンツとして、学校のニーズや地域・協力する企業の課題解決を踏まえたプログラムをご提案します。小学生から中学・高校生まで、幅広くご活用いただけます。



学年末のふりかえりに。

モチベーションをテーマとしたプログラムでは、いまの自分とこれからの自分の自分を、自分や仲間と対話しながら気づき、表現していきます。1年間の教育活動の中で、成長した自分に気づき、次年度へのモチベーションを高めます。



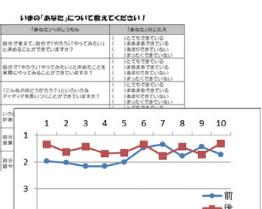
身边に感じられる先輩から。

学校のOB/OGや同じ競技を行ってきた先輩からの講話を通じて、今の部活動が将来にどんな風に活かされるなど生徒に気づきを与え、部活更に価値のあるものにしていきます。



セルフアセスメントを導入。

プログラム前後でセルフアセスメント(自己評価)を実施し、子どもたちの変化を読み解きます。個人・クラス・学年単位で伸びしる力に対して、獲得・向上につながっているかの参考としてご活用いただけます。



新入学・新学期に。

受講生のアンケートでは、自分で気づけなかった長所を発見できた93.8%、ゲストや仲間の意見を聞くことで様々な価値に気づいた90.3%等、自分や仲間にに対する前向きな変化がみられました。クラスづくりや、協働学習への動機づけなど、お気軽にご相談ください。



新チーム結成時に。

学年が入れ替わり、新たにチームを結成するタイミングで、チームの目標やテーマを考え決めるプログラムを実施。生徒が自分たちで考え、チーム作りを行うことでモチベーションとチーム力を高めます。



一般社団法人  
カンコー教育ソリューション研究協議会

お問い合わせ : info@k-esc.or.jp TEL : 086(898)2590 [カンコー教育ソリューション研究協議会]

**KANKO**

発行：菅公学生服株式会社 教育ソリューション事業本部内  
一般社団法人 カンコー教育ソリューション研究協議会 事務局 カンコータイムズ編集部  
メールアドレス : k-solution@kanko-gakuseifuku.co.jp  
TEL : 086(898)2590 FAX : 086(898)2513 [カンコー学生服]

ご意見・ご感想、取材のご希望についてはメールアドレスもしくはWEBにて受付を行っております。  
カンコータイムズはこれからも不定期に発行していく予定です。  
次号をお楽しみに。 カンコータイムズ vol.9 2019年2月発行

# 「職場体験」の質向上のために



「地域に人が残らない」ことに危機感を覚え、数年前からキャリア教育に力を入れている宮崎県。毎年行われてきた子どもたちの職場体験を、ひとつのイベントに終わらせることなくより深く地元企業の魅力を知り、働く目的や意義を体感できるプログラムにしようと、カンコーと協働しての取り組みが始まりました。

日本のエネルギー問題や人口問題などについての政策提言を行つてゐる「日本創成会議」の人口減少問題検討分科会は、2040年には全国1800の市町村のうち896の自治体が、消滅する可能性の高い「消滅危惧市町村」になると公表しています。これは全体的な人口減少に加え、特に若い女性(20~39歳)が就きたい仕事を求めて都市部に流出することが原因とされています。これを受け乗り越えるには、自治体経営に先進のテクノロジーを活用して効率化・合理化を図るとともに、地域が生き残るために魅力的な事業を創出できる人材育成を今から進めていかねばなりません。超スマート社会の中でも、発想力やデザイン的思考、リーダーシップなどを發揮して、地域の新しい価値を生み出せるのはやはり「人」。たとえ都心部へ進学したとしても、生まれ育った土地に戻つて仕事を就きたい、地域の役に立ちたいと考える子どもたちを育て、「地域に人を残す」ための学びが今、必要なのです。



いま問われているのは  
地域を支える「人づくり」

小中高の体験学習は  
社会で働くことの意味と  
やりがいを知る第一歩



こうした事情を踏まえ、学校現場では「キャリア教育」がますます重要な意味を持つようになってきました。その中でも、子どもたちが地元企業の現場に入り、仕事のやりがいを肌で感じることのできる体験学習は、数多くの小中高が取り組んでいるプログラムです。

しかし、先生方のオーバーワークが叫ばれる中、「受け入れ企業との意思疎通や情報共有が難しい」「明確な目標設定や成果の振り返りまで手が回らない」「例年通り、ただ消化するだけで終わっている」といった意見が、消滅する可能性の高い「消滅危惧市町村」になると公表されています。これは全体的な人口減少に加え、特に若い女性(20~39歳)が就きたい仕事を求めて都市部に流出することが原因とされています。これを乗り越えるには、自治体経営に先進のテクノロジーを活用して効率化・合理化を図るとともに、地域が生き残るために魅力的な事業を創出できる人材育成を今から進めていかねばなりません。超スマート社会の中でも、発想力やデザイン的思考、リーダーシップなどを發揮して、地域の新しい価値を生み出せるのはやはり「人」。たとえ都心部へ進学したとしても、生まれ育った土地に戻つて仕事を就きたい、地域の役に立ちたいと考える子どもたちを育て、「地域に人を残す」ための学びが今、必要なのです。

宮崎の教育現場の悩みと  
カンコーからの提案が合致して  
「職場体験」のリニューアルへ



市部での就職を望む傾向が強く、卒者の県内就職率(2017年3月)は55.8%と全国ワースト2位。その前々年、前年はワースト1位でした。県としても地元に人が残らなければ、宮崎県も、以前から学校と企業が結ぶ体験学習に取り組んでいました。

学校現場が多いのではないかであります。これまでにも、様々な地元企業の職業人(よのなか先生)を学校に招き、講話やディスカッションなどをを行う「よのなか教室」を開催するなど、学校現場のキャリア教育を支援してきました。

そして今年1月、東京で開かれた「キャリア教育推進連携シンポジウム」で、宮崎県キャリア教育支援センターとカンコー教育ソリューション研究協議会が出会い、互いの見識が共鳴。折しも4月から、宮崎県では各学校の職場体験をリニューアルする事業が始まることになりました。これまでイベント化しがちだった職場体験を、働く目的や意義をより体感できる内容へとブラッシュアップし、地域と一緒に危機感を募らせ、「宮崎県キャリア教育支援センター」を設立するなどし、県民総ぐるみで宮崎の未来を担う人材育成に取り組んでいます。これまでにも、様々な地元企業の職業人(よのなか先生)を学校に招き、講話やディスカッションなどをを行う「よのなか教室」を開催することで、カンコーが有する「人づくりプログラム実践サポート」のメニューを実際に受け入れ企業に向けた事前研修を実施するなど、職場体験のトータルな質向上を目指してタッグを組むことになりました。

そして今年1月、東京で開かれた

## 事前研修として、子どもを受け入れる 地元企業を集め、4つのワークを展開



気軽に情報や意見を交換できるよう、1つのテーブルに企業が混在する状況をつくりました。

職場体験のリニューアルにあたり、最初にモデルケースとなつたのが延岡市の「北方学園中学校」です。今回から、来たるべき新しい社会の中で求められる力をより育める「課題探求型」の職場体験にしようと、県と学校との討議の中で「企業の魅力を発見しよう」というテーマが生まれました。これを受けて8月7日、延岡商工会議所に、北方学園の中学生たちを受け入れる地元企業の担当者が集合。テーマに沿った体験プログラムを実現するための事前研修が行われました。

研修は大きく4つのワークで構成され、いずれもカンコーコーナーの担当者がファシリテーション。

**ワーク1 「現在の教育活動について情報交換しよう」**では、各企業の参加者が、これまで自社がどのように学校教育現場に関わってきたかをワークシートに整理し、その内容について企業間で話し合いました。また

カントーから、CSRや他社の特徴的な体験学習プログラムについてもレクチャーし、子どもたちの職場体験は受け入れ企業にとって多くのメリットがあることを伝えました。

「受け入れ前の情報整理をしよう」では、各企業が「も



参加者の中には、すでに「よのなか先生」として北方学園で講話や対談を経験している人も。

職場体験のリニューアルにあたり、最初にモデルケースとなつたのが延岡市の「北方学園中学校」です。今回から、来たるべき新しい社会の中で求められる力をより育める「課題探求型」の職場体験にしようと、県と学校との討議の中で「企業の魅力を発見しよう」というテーマが生まれました。これを受けて8月7日、延岡商工会議所に、北方学園の中学生たちを受け入れる地元企業の担当者が集合。テーマに沿った体験プログラムを実現するための事前研修が行われました。

研修は大きく4つのワークで構成され、いずれもカンコーコーナーの担当者がファシリテーション。

**ワーク1 「現在の教育活動について情報交換しよう」**では、各企業の参加者が、これまで自社がどのように学校教育現場に関わってきたかをワークシートに整理し、その内容について企業間で話し合いました。また

カントーから、CSRや他社の特徴的な体験学習プログラムについてもレクチャーし、子どもたちの職場体験は受け入れ企業にとって多くのメリットがあることを伝えました。

「受け入れ前の情報整理をしよう」では、各企業が「も

## 職場体験を提供することで、企業にとつても数多くのメリットが付随

多忙な中、子どもたちに職場体験を提供するには、それなりの準備が必要です。しかし、カンコーの研修担当者は「自社の魅力を再認識でき、子どもたちの意欲に触れて自分たちもモチベーションが上がる。さらに、企業のPRやブランディング、長期的な人材育成につながったり、若手社員の研修の機会にもなったりと、職場体験は受け入れ企業にとっても多くのメリットがあるのです」と語ります。

また、今回の事前研修に参加した企業からは「これまで、学校側が求めていることがよく分からぬまま受け入れていた」「もっと早く知つていれば」という声も上りました。これについてもカンコーコーナーの担当者は「多くの学校現場の先生方は、子どもたちを引き受けてくださる企業に対して、お忙しいところを何とか」と遠慮しがちで多くの要望を出しません。でも、そうなると企業も何をすればいいか分からず困ってしまうんです」とのこと。「企業にとってのメリットがたくさんあることを先生方にも知っていただく

最後に**ワーク4 「受け入れスケジュールを作成しよう」**で、2日間にわたる職場体験の流れを大まかに組み、一連のワークを終えました。

ワーク4 「受け入れスケジュールを作成しよう」で、2日間にわたる職場体験の流れを大まかに組み、一連のワークを終えました。

ワーク4 「受け入れスケジュールを作成しよう」で、2日間にわたる職場体験の流れを大まかに組み、一連のワークを終えました。

ワーク4 「受け入れスケジュールを作成しよう」で、2日間にわたる職場体験の流れを大まかに組み、一連のワークを終えました。

と、気軽に要望を出したり相談したりできる。企業もメリットを実感することで、より積極的になる。そんな好循環が生まれればいいな、といい想いでサポートしています」。

事前研修を受けた企業はこの後、リヤ教育センターと話し合いながら各々の職場体験スケジュールを決定。準備を整え、受け入れ当日を迎えました。



ワークシートに書き込むことで、認識が整理されます。  
また、他社のシートを見せてもらったり、意見を聞くことで新たな気づきも生まれます。

### 参加企業

- 株式会社虎屋
- エンシティホテル延岡 株式会社
- 大瀬別荘グループホーム
- 株式会社興電舎
- オートバックス 延岡店

# 職場体験 プログラム

企業の魅力を発見しよう!

# 企業の魅力から 学ぶ力を育もう。

中学生が仕事の現場に入り、働く目的や意義を感じました。

## 北方学園中学校（学校プロフィール）



宮崎県延岡市北方町に位置。延岡市では2012年に策定した「わかあゆ教育プラン」に基づき、市内すべての中学校区で小中一貫教育を実施しています。本校も2014年度より北方町内の小学校と統合され、小中一貫校「延岡市立北方学園」として開校。

「北方の伝統を継承しつゝ、北方の発展に積極的に参画し、『ふるさと北方』を創造する児童・生徒の育成」を教育目標として、系統性と連続性のある9年間の義務教育を推進しています。



朝8時、生徒たちがやや緊張した面持ちで次々と登校してきました。まず体育館に集まり、先生から企業の魅力を発見しよう」という今回の目標を再確認。その後の留意点を聞いた後、2台のスクールバスに分乗してそれぞれの職場へ。2年生26名が5つの班に分かれ、9月6日(木)・7日(金)の2日間にわたり、同じ職場で仕事を体験しました。



商品に値段を貼って陳列。ハンドラベラーの使い方に苦戦する生徒も。

「商品に値段を貼って陳列。ハンドラベラーの使い方に苦戦する生徒も。」  
商品に値段を貼って陳列。ハンドラベラーの使い方に苦戦する生徒も。

カーリング用品店の最大手であるオートバックス延岡店では、様々な来店客を相手に商品を販売した。生徒たちは店頭に立ち、お客様の流れや来店の目的を探りながら、スタッフの方の接客の仕方を観察。レジでの袋詰めや在庫補充なども手伝いました。さらにタイヤやオイルを交換するピット見学や、お客様の車の洗車も体験し、物販にとどまらないサービスの幅広さを知りました。

店長によると、若い男性のクルマ離れが進み、品ぞろえは昔に比べて女性向けのカーリングテリア関連用品を充実させているのだとか。また、先に買うものを決めて来店されるお客様が多いことから、スターのように買い回り品の順序を想定することなく、目的別に売れ筋を考えて陳列しているのだそうです。生徒たちは商品の場所を探して右往左往していましたが、「あって失敗させる環境をつくってやりたい。そこから学び取るものだから」と店長。「皆さんを迎えた時、商品の陳列順などは詳しく説明しませんでしたね。ただ、案内板やプライスカードを見て、どこに何があるか確認してください」とサラツと言いました。しっかりと聞いていた子は早く動けたはず。人の話を聞く力で差がつくんです」。最後の店長のお話からも、生徒たちは大切なことに気づきました。

## オートバックス延岡店

※敬称略



膨大な種類の商品を前に失敗からも学び取る



工場内を見学。安全面への配慮や、ものづくりへの情熱を目の当たりにしました。

企業の事前研修の場では、「これまで高校生や専門学校生、大学生の工場見学やインターンシップを受け入れてきましたが、中学生は徒たちも緊張がほぐれて和やかなムードに。「仕事の幅が広い」といった会社の魅力を次々に引き出しができました。また「生活に欠かせない電気を供給している」地域の人々の暮らしに貢献できる」といったやりがいもリアルボイスとして聞き、将来進みたい道を考えるうえで大きなヒントを得たようです。

電気設備の保全設計や保全サービスを柱とする興電舎に向かった生徒たちは、まず「安全教育」を受けました。職場体験を行う上で安全を確保するための注意事項伝達はもちろん、普段からいかに同社が安全確保に細心の注意を払っているかをレクチャー。生徒たちは「安全は商品」という言葉が特に印象に残ったようでノートに書き留めていました。

企業の事前研修の場では、「これまで高校生や専門学校生、大学生の工場見学やインターンシップを受け入れてきましたが、中学生は徒たちも緊張がほぐれて和やかなムードに。「仕事の幅が広い」といった会社の魅力を次々に引き出しができました。また「生活に欠かせない電気を供給している」地域の人々の暮らしに貢献できる」といったやりがいもリアルボイスとして聞き、将来進みたい道を考えるうえで大きなヒントを得たようです。

生徒たちは、まず「安全教育」を受けました。職場体験を行う上で安全を確保するための注意事項伝達はもちろん、普段からいかに同社が安全確保に細心の注意を払っているかをレクチャー。生徒たちは「安全は商品」という言葉が特に印象に残ったようでノートに書き留めていました。

初めて」と語っていた同社。今回の体験プログラムでは、工場見学や配線実習などに加え、中学生にとってより身近な存在である新入社員や若手社員との座談会を設けたことが大きな特徴です。新入社員の中には北方学園の卒業生もあり、共通の話題を投げかけると生徒たちは初め不安げな表情でしたが、家庭的な雰囲気と職員の方々の明るい対応に、すぐに笑顔が見られるようになりました。目の前におられる入居者さんに合わせて仕事をしている入居者さんと一緒に笑顔が区切られていません。目の前におられる入居者さんに合わせて仕事をしている」と施設長。生徒たちはそんなり、施設内の飾りつけを作った

宿泊はもちろん、宴会やウェディングまで行い、上質なサービスが求められるホテル業界。エンシティホテル延岡に向かった班は、ホテルならではの多彩な業務を体験しました。レストラン業務体験では、バイキングメニューを朝と昼で変えていたことや、年齢別に料金が設定されていることを知り、ホテルならではのきめ細かなサービスを実感。フロント業務体験ではお客様からの電話を想定し、実際に受話器を持ちながら受け答えを練習しました。初めは照れがあった生徒も、「挨拶は基本」「いつも笑顔で」と指導を受けるう

にスムーズに言えるように。お客様の名前を覚えることで、より喜ばれることも聞き、付加価値のあるサービスの大切さを学びました。他の設営や宴会場の片付けなどを手伝い、「結婚式もパーティーも宿泊も全部行えるのがすごい」「いろんな人に合った部屋が用意されている」と、同ホテルの良さをいくつも発見できました。

ホテル側も「今回は事前研修を通じて私たちも学ぶことが多い、職場体験とはどうあるべきかを見つめ直すことができました。その体験からどういふべきかを見つめ直すことができました。その時は楽しかったなど。そういうポジティブな思いが、将来の職業選択につながり、業界の人手不足解消につながれば」と、施設長が思いを語っていました。

## ”身近な先輩“としての新入社員にもインタビュー



「どうして興電舎に入ったのですか?」「学生時代と違うことは何ですか?」など、座談会では質問に対する先輩の率直な思いが聞けました。

## 多彩なサービスを実践 ホテルならではの上質かつ



プロからコツを教わりつつ、協力しあってベッドメイキング。「全部の部屋でこれをやるのか」と生徒たちは感嘆。

## 自ら考え、行動する力を養う 入居者の状況に合わせて



### 興電舎



電気設備の保全設計や保全サービスを柱とする興電舎に向かった生徒たちは、まず「安全教育」を受けました。職場体験を行う上で安全を確保するための注意事項伝達

※敬称略

### エンシティホテル延岡



宿泊はもちろん、宴会やウェディングまで行い、上質なサービスが求められるホテル業界。エンシティホテ

ル延岡に向かった班は、ホテルならではの多彩な業務を体験しました。

レストラン業務体験では、バイキン

グメニューを朝と昼で変えていたことや、年齢別に料金が設定されていることを知り、ホテルならではのきめ細かなサービスを実感。フロント業務体験ではお客様からの電話を想定し、実際に受話器を持ちながら受け答えを練習しました。初めは照

れがあつた生徒も、「挨拶は基本」「いつも笑顔で」と指導を受けるう

にスムーズに言えるように。お客様の名前を覚えることで、より喜ばれることも聞き、付加価値のあるサービスの大切さを学びました。他の設営や宴会場の片付けなどを手伝い、「結婚式もパーティーも宿泊も全部行えるのがすごい」「いろんな人に合った部屋が用意されている」と、同ホテルの良さをいくつも発見できました。

ホテル側も「今回は事前研修を通じて私たちも学ぶことが多い、職場体験とはどうあるべきかを見つめ直すことができました。その体験からどういふべきかを見つめ直すことができました。その時は楽しかったなど。そういうポジティブな思いが、将来の職業選択につながり、業界の人手不足解消につながれば」と、施設長が思いを語っていました。

### 大瀬別荘グループホーム



大瀬別荘グループホームには、認知症をもつ高齢者の方が入居。入浴、排せつ、食事などの介助を受けながらともに生活されています。普段、認知症の方と接することのない生徒たちは初め不安げな表情でした

が、家庭的な雰囲気と職員の方々の明るい対応に、すぐに笑顔が見ら

れるようになりました。目の前におられる入居者さんに合わせて仕事をしている入居者さんと一緒に笑顔が区切られていません。目の前におられる入居者さんに合わせて仕事をしている」と施設長。生徒たちはそんなり、施設内の飾りつけを作った

間が与えられました。「自分で考えて行動する力」は、まさに今後の社会で子どもたちに求められるもの。「1日目はとにかく慣れてもらい、高齢者、認知症について知つてもらう。2日目に少し主体的に動く時間を作つて、あ

の時は楽しかったなど。そういうポジティブな思いが、将来の職業選択につながり、業界の人手不足解消につながれば」と、施設長が思いを語っていました。

レストランでは、バイキングに使われる食材への工夫や注意点などを熱心にメモ。

徒たちも緊張がほぐれて和やかなムードに。「仕事の幅が広い」といった会社の魅力を次々に引き出しができました。また「生活に欠かせない電気を供給している」地域の人々の暮らしに貢献できる」といつたやりがいもリアルボイスとして聞き、将来進みたい道を考えるうえで大きなヒントを得たようです。

ホテル側も「今回は事前研修を通じて私たちも学ぶことが多い、職場体験とはどうあるべきかを見つめ直すことができました。その体験からどういふべきかを見つめ直すことができました。その時は楽しかったなど。そういうポジティブな思いが、将来の職業選択につながり、業界の人手不足解消につながれば」と、施設長が思いを語っていました。

調理の盛り付けをお手伝い。心を込めて作られた料理を、食欲をそそるように美しく均等に盛り付けます。

その体験からどういふべきかを見つめ直すことができました。その時は楽しかったなど。そういうポジティブな思いが、将来の職業選択につながり、業界の人手不足解消につながれば」と、施設長が思いを語っていました。

入居者の方と一緒に、イベントの飾りつけを作成。手を動かしながら地域や学校生活について話をしました。